

特集①

AIのスキルアップに挑むエンジニア対談

AIをどう使いこなし、自らのスキルをどう磨くのか。
AIを活用しながら成長を続ける2人のエンジニアが
仕事の変化とこれから求められる力について語ります。

「ARTNER Magazine」

エンジニアやスタッフへのインタビュー
をWebサイトに掲載しております。

Home ▶ARTNER Magazine



AIの活用で変わる、業務と時間の使い方



Q.業務では、AIをどのように活用していますか。

T：お客様から許可されている範囲で、複数のAIを用途に応じて使い分けています。コードの実装や設計、技術調査、デバッグにはClaudeを使い、Microsoft製品のドキュメントを扱う際にはCopilotを活用しています。

W：私は、ClaudeやGitHub Copilotをコードの実装・修正、設計書の作成、説明資料の下書きなどに活用



ハイバリュウグループ
ソフトウェア エキスパート
T.N.

2016年 新卒入社

しています。特に、コードや資料の初期案を作る際に役立っています。

Q. AIの活用により、仕事はどう変わりましたか？

W：初期案を効率よく作成できるようになり、私の感覚では作業負担が半分以上軽減されました。手戻りも減り、レビュー

や技術的な検討に時間を充てられるようになっていきます。

T：技術調査やサンプルコードの作成、実装方法の検討、ドキュメント作成などにかかる時間は、感覚として約70%削減されました。特に、コードの実装時間が大幅に短く

なっています。その分、設計や技術的な検討に、より多くの時間を充てられるようになりました。

Q. AIの活用が進む中で、エンジニアにはどのような力が求められると思いますか？

W：構想設計や仕様検討といった上流工程の重要性が、今後さらに高まると感じています。製品に搭載する機能についてAIに尋ねれば、一般的な案を得ることはできます。何をつくるのか、どのような価値を提供するのかを考えることが、AIを活用するエンジニアには一層求められると思います。

T：AIが普及するほど、エンジニアの役割は「実装する人」から「設計・判断・責任を担う人」へ移っていくと考えます。コーディングは高い精度でAIが行えますが、何をつくるべきかを決める要件定義や、システム全体の構造を考えるアーキテクチャ設計は、今もエンジニアの力が大きく求められる領域です。



ハイバリュウグループ
ソフトウェア エキスパート補佐
W.S.

2021年 新卒入社

特集②

グループ連携で描く成長戦略

当社は持続的成長に向け、自社のストロングポイント・ウィークポイントを相互に補完・補強できるパートナーとして、(有)クリップソフトと(株)情報技研をグループ会社化いたしました。両社との連携により、対応できる技術領域と拠点ネットワークを広げてまいります。



参画で広がるキャリアの選択肢

当社が大切にしているのは、優秀な人財の確保と定着です。その鍵を握るのが「採用地と勤務地の一致」という戦略。横浜・大阪・名古屋・宇都宮・福岡に拠点ネットワークを展開する中、クリップソフトの参画により新たに「静岡・浜松」という選択肢が加わりました。地元で働きたいというニーズに応えることは、学生や求職者にとって新たなキャリアの選択肢となるとともに、地域に根ざした人財確保にもつながります。クリップソフトは、浜松本社と静岡事業所の2拠点で、請負プロジェクトを連携して進めています。

詳細はYouTubeに公開している動画をご覧ください。

「アルトナーグループ戦略 |
静岡・浜松でのソフトウェア領域の強化
(クリップソフト)」



人財育成が支える技術力とサービス

情報技研では、当社と同じく、新入社員に対する技術スキルの向上に加え、社会人としての教養や心構えを習得するヒューマンスキル研修にも力を入れています。入社から現場配属までの約4か月間で技術の基礎とビジネスマナーをしっかりと身につけ、お客様から頼りにされる技術者へと成長できる体制を整備。配属後も、年次やキャリア段階に応じた研修や、CATIA・専門知識・PCスキルを学ぶテーマ別研修などのレベルアップ研修を実施し、技術者一人一人の継続的な成長を支えています。

詳細はYouTubeに公開している動画をご覧ください。

「アルトナーグループ戦略 |
機械系ハードウェア領域の強化
(情報技研)」

